編集を終えて

編集委員会のもとに組織された幹事会は，略史の構成の検討や執筆者の割り振りに加え，巻末の年表作成も役割の一つとした．年表に掲載する 10 年分のトピックを選定しながら，つくづく，この 10 年がほんとうにたいへんな 10 年であったと実感した．我が国のみならず世界を見渡しても，コロナ禍はもとより，毎年のように大規模な自然災害に見舞われ，さらに政治や社会の混乱は続き，まさしく将来を見通すことが困難な 10 年であった．

土木学会にとっても，2014 年に創立 100 周年の大きな節目を迎え，次の 100 年を見据えて改めて基礎を固めるべくこの 10 年が，じっくりと腰を据えてと言うには程遠い，実に慌ただしい 10 年になったのではないかと思う．しかし，こうした状況下にあっても，本略史に見るように，歴代会長のリーダーシップのもと，土木学会の次の 100 年を方向づける課題はしっかりと議論され，また各業界や各委員会においても，次の 100 年を見据えた取組みが着実に進められてきた．この 10 年で，人も，技術も，そして国土も，確実に強く，そしてしなやかに成熟したのではないか．そうした歩みを取りまとめた本略史が，次の 100 年に向かう土木学会の羅針盤となれば幸いである．

最後に，本略史の編集にあたり，知野泰明委員長をはじめとする編集委員及び幹事の皆様，編集の事務全般を担ってくださった学会事務局の皆様，そして歴代会長をはじめ各記事をご寄稿くださった皆様に，多大なるお力添えをいただいた．この場を借りて，厚く御礼申し上げる．

2024 年 11 月

土木学会 110 周年記念事業実行委員会

略史編集委員会

幹事長　阿部　貴弘